

第8回バイオリソースセンター情報検討委員会議事録要旨

1. 日 時 平成22年1月21日(水) 10:00~13:00
2. 場 所 新東京ビル 7階 理化学研究所 東京事務所 大会議室
3. 出席者
(委員等) 宮崎 智 委員長
伊藤 剛、鶴川 義弘、菊池 俊一、颯田 葉子、中村 保一、松本 耕三、
宮下 信泉、各委員
(理研側) 小幡BRCセンター長、森脇特別顧問、阿部副センター長、深海情報解析技
術室長、太田専任研究員、加部推進部長、内田企画課長 他

4. 要旨目次

- (1) バイオリソースセンターの評価について
- (2) センターとしての情報整備プライオリティーについて
- (3) 前回の指摘事項・助言・提言に対する対応について
- (4) 平成21年度の実績について
- (5) 平成22年度の計画について
上記(1)~(5)が議題
- (6) 委員会での指摘事項・助言・提言のまとめ

5. 主な内容

- (1) バイオリソースセンターの評価について
 - ・昨年1月18日~21日に東京で第3回バイオリソースセンター・アドバイザリーカウンシルが開催された。本委員会はセンターの基本的な運営方針を決定する委員会では今回からはリソース検討委員会の委員長にも委員になって頂き評価を受けた。
 - ・独立行政法人評価委員会では、最高評価のS評価を得ることができた。
 - ・総合科学技術会議(CSPP)の平成22年度予算優先順位づけヒアリングがあり、一番評価の高い優先という評価を得ることができた。
 - ・上述の評価で指摘を受けた点として、当センターの弱点は各開発室がリソースを提供して全てが終了したと解釈して、成果をアピールするという観点がなかったという点がある。即ち、利用者による成果情報の収集が十分でない点が指摘され、今後改善して行きたいと考えている。
 - ・アジアネットワークの構築による人材育成、技術移転という観点から、Asian Network of Research Resource Centersというネットワーク構築のイニシアティブをとり、活動を行っている。
- (2) センターとしての情報整備プライオリティーについて
 - ・センターを運営する上で、あるいは国の中核機関としての役割を果たすため、どのような情報の整備が優先されるかを検討し、プライオリティー付けを行った。
 - ・今後BRCの情報解析技術室ならびにリソース開発室は、プライオリティー付けにしたがって情報整備を行う。

- (3) 前回の指摘事項・助言・提言に対する対応について
情報解析技術室の運営について

評価・提言：

- ・データベースの分散化、データ分割化は急務であり、外部に開発委託ができないかを検討すべき。データベースを手直しする時間も人もないのは問題であり、BRC全体で対応すべき問題である。DBが不安定となりそうな状況は早急に解消する必要がある。理研全体でその危機的状況を理解し、人員、費用を情報に重点的に回すようにすべきだと考える。

対応：

- ・バイオリソースの情報、データベースが不安定な状況等は長期の視野に立って、早急に解消する必要がある。理研全体に働きかけていきたい。理研に留まらず世界的規模での予算獲得を考えていきたい。これらの問題は情報だけで解決するのではなく、BRCとして検討するのが効果的と思われる。各リソース開発室と連携して進めていければと思っている。

評価・提言：

- ・データベースの運用の持続性は大変重要なことだと思われる。また、今後リソースが増えていくことが予想されており安定な運用をめざして、バイオリソースセンターとしての問題として解決に向かっていただきたい。運用マニュアルの強化を図るべきだ。上位レベルのマニュアルの作成が急務。

対応：

- ・より安定な運用をめざし、複数人で対応できるようにするため、既存マニュアルでは手順の遵守を一層心がけるなど、管理の強化を図った。上位レベルの業務を担当できる人材を複数人確保するための努力を行っていきたい。

評価・提言：

- ・情報の流失がないよう、セキュリティの問題については十分に慎重を期すべきだ。

対応：

- ・21年4月より情報環境室が筑波研究所全体の情報セキュリティの確保を担当することになり、当室はBRCリソース事業に係る部分の情報セキュリティの確保を担当することになった。
- ・現在は情報環境室と共同で、筑波研究所のセキュリティポリシー策定や、職員への研修などを計画中。

情報解析技術室の開発事業について

評価・提言：

- ・情報解析技術室の開発事業について2~3年先の中期的構想を示すべきであり、次期システムの設計検討に取り組んでいただきたい。また、システム設計に関しては外部コンサルも含めて検討を行うべきである。

対応：

- ・既に次期システムの開発（BRCリソースデータベースの再構築）に着手しており、近日中に第1期（リソース提供業務に係る部分）が終了する。リソース提供業務の進め方自体にも改善が行われており、リソース提供業務のうち請求・入金部分については、来年度からアウトソーシングされる予定である。引き続き第2期（ウェブカタログに係る部分）を行うべく、仕様の策定ならびに関係部署との調整を行っている。

情報解析技術室の人材育成について

評価・提言：

- ・これからの情報解析技術室の安定的な運営のために、有能な人材を確保する方法と方策を講ずるべきだ。

対応：

- ・筑波大学その他での講義をとおして、バイオリソースに興味をもつ有用な人材の確保に繋げるとともに、リソース利用における関連情報の重要性、それに対する人員の必要性を理研内部に説明し続けていきたい。

情報解析技術室の広報活動その他について

評価・提言：

- ・BRCの利用に関し、大学等へもう少し何らかの利用促進のアイデアが必要。より多くの研究者にリソース情報の有用性がより広く認識されるようになることを期待したい。

対応：

- ・BRCからのリソース関連情報の利用促進に関して、各リソース開発室と連携を強化し、各大学向けにインパクトのある情報発信を進めていきたい。今後は国民の目線からもセンターの存在意義を理解してもらえよう、発信する情報を考えていきたい。

(4) 平成 2 1 年度の実績について

- ・新規リソース提供にともなうウェブカタログの開発、既存ウェブカタログのデータ更新、リソース識別番号の整備、オンライン帳票作成システムの改修、ホームページの運用・更新、メールニュース配信の支援、リソース提供情報の収集、ミニアンケート集計、他機関のリソースデータベースとの連携、人材育成、BRCリソースデータベース再構築開始、データのバックアップ体制整備、BRCリソースデータベースのサーバ室設置等を実施した。

(5) 平成 2 2 年度の計画について

- ・情報整備プライオリティーにしたがい整備の遅れている項目を強化する。
- ・BRCリソースデータベースの再構築を行い、運用コストの軽減を図る。
- ・アウトソーシングにより、更なる運用コスト削減を図る。
- ・持続可能なデータベース運用体制作りに取り組む。

(6) 本委員会での指摘事項・助言・提言のまとめ

- ・情報解析技術室の内部管理データは、必要なときに取り出せるものに改善すべきだ。内部的な辞書の設定も必要と思う。
- ・バイオリソースの利用成果の吸い上げについては、リソースの利用者とのコミュニケーションが一番大切になると思うが、効率的に利用者の成果を回収する方法を構築すべきだ。
- ・利用者にBRCへの成果報告を促す方法として、何かしらのインセンティブを与えるようなシステムを構築してはどうか。例えば論文をつけて出したら提供手数料の減額あるいはポイント制にするとか、新しい制度を設定してはどうか。
- ・広報活動についてだが、バイオリソースの潜在的なユーザーは非常にすそ野が広いと思われる。関連した各学会で保持しているメーリングリストを活用されてはどうか。
- ・バイオリソースセンターの利用頻度のアップという観点からも、リソースの検索のしやすさ等ウェブカタログの使い勝手の一層の改善をお願いしたい。

以上